

## 歴史的分野 学習指導案（公開授業Ⅱ）

指導者 松江市立湖南中学校 教諭 黒田 雅史

### 1. 単元名 広がる貨幣経済 ～江戸時代の財政改革～

### 2. 単元目標

江戸時代の社会のしくみや変化に対して、どのような改革を行えばいいか考え提案し、討論することを通して、幕府政治が行きづまったことを理解する。

### 3. 単元構想

#### （1）教材について

いつの時代においても為政者にとって経済を安定させることは重要な課題である。これは260年の長きにわたって政権を握り、日本を動かした江戸幕府も同様であった。江戸幕府が行った財政政策が江戸後期の社会の変化に対応しきれず、幕府政治が行きづまっていくことになった。

江戸時代も後半になると、これまで以上に産業が発達し、各地の特産物は運送業の発展により全国で売買され、商業も拡大した。その結果、貨幣が社会に浸透し、都市を中心に文化が花開くなど、庶民がいきいきとした時代となった。貨幣経済の広まりは農村にも変化を起し、農民間の貧富が拡大し、土地を失い小作人となる者、都市へ出稼ぎに行く者が現れ、幕府経済の基盤である農村が崩壊していった。さらに、ききんや火山の噴火などの天変地異が度重なり、生活苦や政策への不満から起こる百姓一揆や打ちこわしが各地で発生し、幕府の弱体化が表面化してきた。

幕府は政治を立て直すため、改革に取り組んだ。その改革は一定の成果をあげるものもあったが、農村の変化や自然災害に対応しきれず、やがて幕府政治は行きづまることとなった。

強固な財政基盤をもっていた幕府以上に、全国の諸藩は貨幣経済の浸透による影響や御手伝普請などの課役によって財政運営が困難になっていた。そのような中で、松江藩では家老の小田切備中、朝日丹波らによって藩政改革が行われ、積極的な殖産興業政策や<sup>はつねん</sup>関年といわれた債務破棄、年貢の増徴などにより財政面を立て直すことに成功した。また、諸藩の中には薩摩藩のように貨幣経済の広まりに着目し、独自の政策により幕末に向けて力をつけた藩もあった。

幕藩体制という管理統制のもと、幕府の強固な基盤であった米中心の経済は、経年により社会の変化に対応できなくなり、やがて新しい時代の転換を迎えることとなる。

本単元ではこの時代の変革期に「改革」に視点をあて、変化の背景である貨幣経済の浸透に着眼させたい。諸改革の特徴をつかみ、その効果や考え方を多面的・多角的に追究することを通して、歴史的な見方・考え方を育てることができると考え、単元を構成した。

また、本単元で生徒が考えた改革の視点が、明治以降の近代社会の基盤へとつながっていくことを意識化させておくことで、近代の学習での基盤となる見方・考え方を育成できると考えている。

#### （2）生徒について

<個人情報保護のため省略>

### (3) 指導について

#### ①「単元を貫く問い」と単元構造

本単元は260年も続いた長期政権である江戸幕府が行きづまっていく過程を学習する。これまでの学習で江戸幕府が様々な政策を駆使し、長期政権の土台を築いたことを学んでいる。一方、ペリーの来航により「鎖国」が崩れ、薩摩、長州を中心とする雄藩の討幕運動により明治維新が起こり、江戸幕府が滅んだことも小学校で学んでいる。安定した長期政権であった江戸幕府が崩壊するという矛盾を経済の変化の面から考えさせることで、近世から近代にかわる日本の姿をとらえさせたい。そのために、単元を貫く問いを「幕府政治が行きづまった要因は何か。」に設定した。

#### ②学習活動の工夫

○本単元では研究主題との関わりにおいて「創造的思考力・判断力」の育成を目的としている。本時の学習では「幕府政治を維持するためには、どのような政策をするべきだろうか。」を問い、幕府や藩の改革を元に、幕府政治を立て直す政策を考える学習を通して幕府政治の限界にせまっていく。本時に向けて、それぞれの改革の諸政策から特色をレーダーチャートにあらわし、多面的・多角的にとらえさせる。このレーダーチャートをもとにそれぞれの改革の特色を自分たちの言葉で表現する。そこから幕府政治の立て直しに必要な政策を考え、その可否を討論していきたい。ここでは、その可否を結論づけることが目的ではなく、改革の限界とその理由を追究することによって社会の変容に気づかせたい。新しい視点にたち、考える楽しみを感じられる授業にしていきたい。

○生徒が歴史を身近に感じることができるよう松江藩の改革を取り扱う。松江藩には詳細な財政収支が記されている「でいりんしょうらん出入捷覧」が残っており、経済的困難に対する諸藩の政策を見るのに適している。さらに、幕府の改革と対比させ、改革に対する考え方を広めたり深めたりすることができる。また、歴史により具体性をもたせることができると考え、松江藩の改革を扱うこととした。

#### ③評価活動

毎時間の課題に対する振り返りを自分の言葉で表現する振り返りシートを記入し、思考の変化や深まりに気づくことができるようにしたい。また、討論を行うことで、他者の意見を評価し、自分の考えとの異同を確認、理解、修正し、再提案できるように学習過程を工夫していきたい。

4. 単元構造図



5. 単元を通して育成したい思考力・判断力

評価基準		評価資料
B評価	手立て	
江戸幕府の基盤と社会の変化を関連づけて、幕府や藩の改革を価値判断し、江戸幕府の行きづまりの背景を自分の言葉で説明している。	各改革のレーダーチャートや江戸幕府の基盤を表す掲示物などを準備し、価値判断し、自分の言葉で述べられるよう促す。	発言 ワークシート 振り返りシート

6. 単元の指導計画（全6時間）

■教師のはたらきかけ ●生徒によるはたらきかけ ◎評価活動

時	「問い」とおもな学習活動	思考力・判断力を育成する手立て
1	<p>問い：江戸時代、人々はどのような暮らしをしていたのだろう。</p> <p>○資料から江戸時代の文化の特色と、生き生きとした民衆の姿をとらえる。</p> <p>○百姓一揆から農村の変化や百姓たちの願いを考える。</p> <p>○年表を使い、江戸時代後期に起こる出来事を確認する。</p> <p>・幕府による改革 ・自然災害 ・百姓一揆、打ちこわし</p> <p>○貨幣経済が広まり、人々の生活が変化する中で、安定していた江戸時代に終わりがくことに気づく。</p>	<p>●グループで一揆が起こる背景を貨幣経済の広まりと関連付けて考える。</p> <p>■江戸時代後半の年表から幕府の行きづまりを見せ、「江戸幕府は安定した長期政権だった」という既習事項をゆさぶり、問いをもたせる。</p> <p>◎江戸時代後期の社会の様子を自分の言葉で振り返る。</p>
2	<p>問い：幕府や藩はどのようなことに困るのか。</p> <p>○幕府や藩の窮状を農村の荒廃や貨幣経済の広がり、自然災害の多発と結びつけて考える。</p> <p>○資料から松江藩は親藩でありながら多額の借金を背負い、貧窮していたことをつかむ。</p> <p>○財政の危機に対して幕府や藩はどのような改革を行えばいいのか予想する。</p> <p>○予想を整理し、改革の視点をまとめる。</p> <p>・支出を抑える ・米の増産（年貢米の確保） ・貨幣の増収（借金の返済） ・天災への備え</p>	<p>■松江藩の資料をもとに考えさせる。</p> <p>●グループで改革に必要な視点を付箋に書き込み、整理・分類していく。</p> <p>◎幕府や藩が改革に取り組む背景について、農村の荒廃や貨幣経済の広がり、自然災害の多発を結びつけて自分の言葉であらわす。</p>

3	<p>問い：幕府はどのような改革を行ったのだろうか。</p> <p>○資料を使い、田沼政治と寛政の改革について、前時で挙げた4つの視点をもとにレーダーチャートにまとめる。</p> <p>○民衆の立場でそれぞれの改革について感想を書く。</p>	<p>●レーダーチャートを作成することで、それぞれの改革の特色を表す。</p> <p>■百姓や町人といった為政者とは異なる立場で改革をとらえることで、改革の特色をより多角的につかませる。</p> <p>◎改革の特色を自分の言葉で表現する。</p>
4	<p>問い：どちらの改革に力をいれるべきだろう。</p> <p>○田沼政治と寛政の改革、どちらを支持するか発表し討論する。</p> <p>→ どちらの改革にしても財政を立て直すような十分な成果が出なかった</p> <p>○幕府はどうすべきか、次時に向けての問いをもつ。</p>	<p>■なぜそちらの改革を支持するのか、成果やもう一方の改革の問題点を根拠に述べさせる。</p> <p>●発表を聞いて各立場への質問や付け加えを行い、思考を深める。</p> <p>◎他者の意見を受けて、自分の主張と結びつけたり、関連づけたりしながら、思考を深め、表現する。</p>
5・6 本時	<p>問い：幕府政治を続けるためには、どのような政策をすべきだろうか</p> <p>○松江藩と薩摩藩の改革の特色をまとめる。</p> <p>○松江藩と薩摩藩の改革を参考に、幕府政治を続けるためにどのような政策が必要か考える。</p> <p>○自分たちが考えた政策を提案する。</p> <p>○考えた政策について実現可能か不可能か討論する。</p> <p>○前単元で学習した概念（江戸幕府の基盤）と比較し、江戸幕府の行きづまりを理解する。</p> <p>○幕府政治が行きづまった要因について考える。</p> <p>（例）江戸幕府の基盤である「米中心の経済」や「身分制度」、「鎖国」は貨幣経済が拡大する社会において限界となっていた。</p>	<p>■財政難に苦しむ藩の中で、財政改革に成功した藩があったことを紹介し、本時の問いにつなげる。</p> <p>■幕府の改革と諸藩の改革を比較し、幕府政治を続けるための政策を考えるよう促す。</p> <p>■江戸幕府の基盤をキーワードとして提示しておく。</p> <p>●◎実現可能か、不可能か江戸幕府の基盤を根拠として考える。</p> <p>●◎幕府政治が行きづまった要因について、江戸幕府の基盤を根拠に説明している。</p>

## 7. 本時の学習

### (1) ねらい

幕府政治を続けるための政策について討論することを通して、幕府政治が行きづまっていた背景にせまることができる。

### (2) 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1. 前時の学習をふりかえる。	○前時までには考えた政策をホワイトボードに掲示しておく。
展開	<p>問い：幕府政治を続けるためには、どのような政策をすべきだろうか。</p> <p>2. それぞれの政策について実現可能か不可能か考え、討論する。</p> <p><b>農村の立て直し</b> (例)・年貢を免除する。 ・小作農に土地を与え、年貢を納めさせる。 ・小作人の借金を帳消しにする。</p> <p><b>貨幣の増収</b> (例)・商品作物の栽培，専売制を認める。 ・工場をつくる。</p> <p><b>貿易の拡大</b> (例)・貿易相手国を増やす。 ・港を開いて貿易できる場所を増やす。 ・外国の進んだ技術を取り入れる。</p> <p><b>庶民や下級武士の尊重</b> (例)・改革に成功した諸藩の意見を聞く。 ・身分が低くても優れた人材を登用する。</p> <p>3. 掲示物や教師の説明を聞き、前単元で学習した概念(江戸幕府の基盤)と比較し、江戸幕府の行きづまりを理解する。</p>	<p>○実現可能か不可能か、青と赤のカードを用いて、意思表示をさせた上で、討論させる。</p> <p>■江戸幕府の基盤をキーワードとして提示しておく。 (例) <b>鎖国</b> <b>幕藩体制</b> <b>年貢</b> <b>身分制度</b> <b>大名統制</b> など</p> <p>●◎実現可能か、不可能か江戸幕府の基盤を根拠として考える。</p> <p>◎討論を通して、自分の考えが変わった生徒はカードを貼りかえる。</p> <p>○討論を通して、実現不可能な政策は江戸幕府の基盤を揺るがすものや社会の変化に対応できないものであることに気づかせ、江戸幕府の行きづまりを理解させる手立てとする。</p>
まとめ	<p>4. 幕府政治が行きづまった要因について考える。</p> <p>(例) 江戸幕府の基盤である「米中心の経済」や「身分制度」，「鎖国」は貨幣経済が拡大する社会において限界となっていた。</p> <p>5. 本時の学習を振り返る。</p>	<p>●◎幕府政治が行きづまった要因について、江戸幕府の基盤を根拠に説明している。</p> <p>○江戸幕府の限界を考えることで、次の時代を想起させる。</p>

### (3) 期待される生徒の姿

- ・幕府政治が行きづまった要因について、江戸幕府の基盤を根拠に説明している。